

令和 6 年度事業報告書

公益財団法人徳川黎明会

I. 管理部門

令和 6 年度においては、コロナ後の経済・社会活動も概ね平常化に向かい、財団の事業活動も平常をとり戻した運営が可能となった。その中で、コロナ禍の下で培った経験やノウハウを生かしつつ、業務の改善や効率化・円滑化を務め、外部環境の変化にも即礼しつつ収益事業の拡大をも務めた。

1. 業務執行体制

令和 6 年 4 月より名古屋から本部へ移動した美術館副館長が総務部長を兼任する新体制の下で、本部と美術館の間の一層緊密な連携を図りつつ、引き続き各種業務の見直し・改善に努め、業務全般に亘る円滑な運営の推進に努めた。

2. 寄附公募活動

本年度も、引き続き、美術館、研究所と連携し、寄附を広く募った。

3. 監事監査

令和 6 年度の業務・会計等監査について、下記のとおり執り行われた。

日時： 令和 7 年 6 月 2 日／13 時 00 分から 13 時 58 分まで

場所： 当財団／本部会議室

対象： 業務、会計、理事の職務執行

4. 理事会・評議員会

(1) 理事会

・ 第 1 回（定時／対面）

日時： 令和 6 年 6 月 7 日／13 時 00 分から 14 時 05 分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第 1 号議案／令和 5 年度事業報告について

第 2 号議案／令和 5 年度収支決算について

第 3 号議案／任期満了に伴う役員の改選および補充について

第 4 号議案／令和 6 年度定時評議員会開催について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

・ 第 2 回（臨時／書面）

日時： 令和 6 年 6 月 25 日

議案： 第 1 号議案／決議の省略について

第 2 号議案／代表理事、業務執行理事（専務理事、常務理事）の選定について

第 3 号議案／業務執行理事（専務理事）の役員報酬について

第 4 号議案／決議日について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

・ 第 3 回（定時／対面）

日時： 令和 7 年 3 月 18 日／15 時 00 分から 16 時 40 分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第 1 号議案／令和 7 年度事業計画について

第 2 号議案／令和 7 年度収支予算について

第 3 号議案／令和 7 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

第 4 号議案／基本財産繰り入れとなる美術館新館一部スペースでの工事実施について

第 5 号議案／資産運用規程の改定について

第6号議案／相談役の選任について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

(2) 評議員会

・ 第1回（定時／対面）

日時： 令和6年6月25日／13時00分から14時37分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第1号議案／令和5年度収支決算について

第2号議案／任期満了に伴う役員の改選および補充について

結果： 全議案について、出席評議員一同異議なく議決された。

5. 官庁申請・届出・報告

・ 内閣府関係

下記について、電子申請システム（公益 Information システム）経由にて提出・報告した。

令和6年6月 令和5年度事業報告および収支決算

令和7年3月 令和7年度事業計画および収支予算

・ 労務関係

下記について、池袋労働基準監督署および名古屋北労働基準監督署に届出た。

令和7年3月 36 協定書

令和7年4月 職員就業規則

令和7年4月 雇員就業規則

令和7年4月 臨時雇員就業規則

令和7年4月 給与規程

令和7年4月 育児・介護休業規程

令和7年4月 定年退職者再雇用規程

6. 役職員等の状況（令和7年3月31日現在）

(1) 役員等

評議員7名、役員8名、相談役1名、合計16名

① 評議員

職位	氏名	現職
評議員会長	田中 秀隆	(公財)三徳庵理事長
評議員	小林 央	富国生命保険(相)総合営業推進部部长
評議員	千葉 功	(学)学習院学習院大学副学長・文学部史学科教授
評議員	濱本 英輔	(株)ハーフ・センチュリー・モア顧問
評議員	原 俊夫	(公財)アルカンシエール美術財団理事長
評議員	松尾 美恵子	(学)学習院学習院女子大学名誉教授
評議員	室瀬 和美	(株)目白漆芸文化財研究所顧問

② 理事

職位	氏名	現職
代表理事（会長）	徳川 義崇	(公財)徳川黎明会徳川美術館館長・八雲産業(株)代表取締役
専務理事	市橋 康吉	(公財)徳川黎明会総務部部长・(公財)徳川黎明会徳川美術館副館長

常務理事	深井 雅海	(公財)徳川黎明会徳川林政史研究所所長
理事	小林 忠	(学)学習院学習院大学名誉教授
理事	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長
理事	前田 利宜	(株)イノダコーヒ代表取締役社長・(公財)前田育徳会理事

③ 監事

職位	氏名	現職
監事	降旗 京二	降旗公認会計士事務所所長
監事	松平 頼昌	(学)本郷学園理事長

④ 相談役

職位	氏名	現職
相談役	竹内 順一	東京藝術大学名誉教授

(2) 職員等

区分	常勤	非常勤	計
職員	20	0	20
雇員	8	0	8
嘱託	4	0	4
臨時	0	13	13
派遣	1	0	1
合計	33	13	46

(3) 協力者等

区分	常勤	非常勤	計
参与	0	14	14
特任研究員	0	18	18
非常勤研究員	0	7	7
非常勤研究生	0	12	12
非常勤学芸員	0	2	2
合計	0	53	53

※ 統計上、雇用関係を優先し、兼務発令・委嘱等を受ける者については、主たる職位に計上している。

II. 公益目的事業

[公益事業 1] 美術館の運営事業（徳川美術館）

令和 6 年度における徳川美術館の年間来館者数は 16 万 8 千人強となり、前年度比約 82%に留まった。前年度は、NHK大河ドラマ「どうする家康」による波及効果があり、令和 6 年度も大河ドラマ「光る君へ」による好影響が期待された中、東京・大阪での館外巡回展「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」（あべのハルカス美術館・サントリー美術館）を開催し得たことにより、大都市圏における訴求を相当に強化することができた 1 年ではあったが、前年度の「家康」人気に伴った周遊ツアーや団体客の減少は、年間来館者数の減少の一要因となったものと考えられる。この間、5 年目を迎えた文化観光拠点計画事業においては、文化庁支援による外部専門家の協力も得て、新たに策定したブランディングの指針をもとに、文化芸術振興費補助金をも活用しつつ、これまで「国宝 源氏物語絵巻」のレプリカ展示と解説のために用いてきたスペースを新たに「情報ラウンジ」として改修し、また美術館の公式ホームページも同指針を基礎にリニューアルした。さらに喫茶スペースについても同様な改修を行うと共に、館内の各種表示もリニューアルしつつある。加えて外部専門家の協力による広報部門の強化策の検討も進められ、令和 6 年度は美術館のハード・ソフト両面での改善・強化に多くの力を注いだ 1 年となった。

1. 美術品の展示・公開・保存・修理・収集

(1) 展示・公開

事業計画に基づき、以下の展示・公開を行った。これにより①②③に記載した展示による令和 6 年度の来館者数合計は 168,592 名となった。

① 名品コレクション展示室（展示室 1～5）

各展示室において年間に 4 回の大展示替えを行ったほか、約 1 か月毎に部分展示替えを実施した。特別展・企画展開催期間を除く名品コレクション展示室のみの開館日の来館者数は 10,403 名であった。

期間 1 (a. 3 月 26 日～4 月 18 日 b. 4 月 19 日～5 月 12 日 c. 5 月 14 日～6 月 9 日)

期間 2 (a. 6 月 11 日～7 月 9 日 b. 7 月 10 日～8 月 6 日 c. 8 月 7 日～9 月 8 日)

期間 3 (a. 9 月 10 日～10 月 14 日 b. 10 月 16 日～11 月 15 日 c. 11 月 16 日～12 月 15 日)

期間 4 (a. 1 月 4 日～1 月 28 日 b. 1 月 29 日～2 月 26 日 c. 2 月 27 日～3 月 23 日)

展示室 5 では「国宝 初音の調度」を、12 月まで順次 1 点ずつ展示した。

展示室 2 では期間 4b～4c に「千利休 泪の茶杓」の特別公開を行った（2 月 22 日～3 月 2 日）。

展示室 5 では期間 3c に「国宝 源氏物語絵巻」関屋・絵合、竹河(二)の特別公開を行った（11 月 16 日～11 月 24 日）。

なお、従来の展示室 6 は 11 月上旬まで「国宝 源氏物語絵巻（複製）」の展示及び同絵巻の解説（動画映像を含む）を実施した後、リニューアル工事を行い、名称を「情報ラウンジ」と改めるとともに「国宝 源氏物語絵巻」の紹介動画および当館発行の図録類やパンフレットの配置による情報提供を行った。

② 特別展（本館展示室）

以下の特別展を開催した。特別展への来館者数合計は 128,502 人となった。

a. 4 月 13 日～6 月 2 日 特別展「花咲(わら)い、風の吹くらん」来館者数計 23,652 名

b. 6 月 8 日～7 月 21 日 特別展 御霊屋改修記念「尾張徳川家と菩提寺建中寺」
徳興山建中寺・中日新聞社共催 来館者数計 18,999 名

c. 7 月 27 日～9 月 16 日 夏季特別展「もののふの備え—甲冑の美学—」（共催展）
名古屋市蓬左文庫との共催展、読売新聞社共催 来館者数計
21,980 名

d. 9 月 22 日～11 月 4 日 秋季特別展「みやびの世界—魅惑の源氏物語—」（共催展）
名古屋市蓬左文庫との共催展、中日新聞社・日本経済新聞社共催

- 来館者数計 33,153 名
e. 2月1日～4月2日 特別展「尾張徳川家の雛まつり」
中日新聞社共催
来館者数計 30,718 名（3月31日まで）、32,086 名（4月2日まで）

③ 企画展（名古屋市蓬左文庫展示室）

名古屋市との協力の下、以下の企画展を開催した。e・fの展覧会の来館者数は下掲の通り、合計 29,687 名であった。下掲 a・b・c・d・g の各展覧会は上掲(1)②a・b・c・d・e と同時開催のため、来館者数は同一である。

- a. 4月13日～6月2日 企画展「人・ひと・ヒト 浮世絵の人と顔」上記 1. (1)②a と同時開催
b. 6月8日～7月21日 企画展「ハマる！工芸」上記 1. (1)②b と同時開催
c. 7月27日～9月16日 夏季特別展「もののふの備え一馬とともに」(共催展)
上記 1. (1)②c と同企画
d. 9月22日～11月4日 秋季特別展「みやびの世界—宮廷文化の華—」(共催展)
上記 1. (1)②d と同企画
e. 11月9日～12月15日 企画展「とんがり美術—キワだつ個性—」 来館者数計 21,797 名
f. 1月4日～1月26日 企画展「めでたきかなお正月」 来館者数計 7,890 名
毎日新聞社共催
g. 2月1日～4月2日 企画展「江戸絵画に新風が吹く」 上記 1.(1)②e と同時開催

④ 特別観覧

a. 研究者等特別観覧

大学等学術・研究機関、外部美術館等からの要請に応じ、特別観覧を実施した（全 27 件）。

b. 徳川茶会（於茶室餘芳軒・山の茶屋・宝善亭）

10月13日,14日,19日,20日,26日,27日,11月3日,4日の8日間実施し、1,697 名が参加した。

⑤ 他館主催展覧会への出陳

五島美術館特別展「古裂賞玩—舶来染織がつむぐ物語」（10月22日～12月1日）、足利市立美術館「山姥切国広展」（2月8日～3月23日）、メトロポリタン美術館「Recasting the Past: The Art of Chinese Bronzes, 1100-1900」（2月28日～9月28日）など他館主催の展覧会に対し延べ 10 館、延べ 34 件の所蔵品（うち林政史研究所史料 1 件を含む）を出陳した。

⑥ 他館との共同展示企画

巡回展「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」（徳川美術館・あべのハルカス美術館・サントリー美術館・読売新聞社主催）を以下の通り実施した。

- a. あべのハルカス美術館（4月27日～6月23日）来館者数計 35,069 名
b. サントリー美術館（7月3日～9月1日） 来館者数計 58,987 名

(2) 修理・保存・収集

① 受贈：普通美術品計 2 件を受贈した。

- a. 雛飾り 森村宜稲作 一式
b. 徳川斎荘竹茶杓 銘 千秋楽 一本

② 修理：以下の修理を実施した。

・国宝 婚礼調度類〔徳川光友夫人千代姫所用〕（「初音の調度」） 初音蒔絵 文台・硯箱 一基・一合

本件修理については国宝重要文化財等保存・活用事業費（国庫補助美術工芸品保存修理事業）および文化財保存事業費（愛知県文化財保存事業）、並びに公益財団法人住友財団文化財維持・修復事業による助成を受けた。

(3) 収蔵品撮影（館内）

各展覧会のための広報用および図録作成に必要な撮影を行った（合計 178 カット）。

2. 調査・研究

(1) 美術館における調査・研究

事業計画に基づき、学芸部において、以下の研究を継続した（括弧内は、開始年度）。

① 館蔵品悉皆調査（昭和 63 年度）、② 尾張徳川家御道具帳のデータベース化（平成 27 年度）、③ 尾張徳川家関係寺社蔵品調査（昭和 58 年度）、④ 尾張徳川家に関連する政秀寺所蔵什宝の調査（平成 20 年度）、⑤ 幕末明治浮世絵の研究（令和 2 年度）、⑥ 尾張藩御用絵師の研究（令和 2 年度）、⑦ 大名家における絵師の絵画活動についての研究（平成 6 年度）、⑧ 尾張における画家の活動について一田中訥言を中心に－（平成 11 年度）、⑨ 武家女性の生活史の研究（平成 29 年度）、⑩ 尾張徳川家旧蔵の古典籍および文書について（平成 8 年度）、⑪ 尾張徳川家の仏教絵画の研究（令和 2 年度）、⑫ 刀剣に関する研究（平成 24 年度）、⑬ 唐絵の受容史的研究（令和 5 年度）、⑭ 茶道史の研究（令和 2 年度）、⑮ 尾張徳川家に関する古典籍および古文書の研究、⑯ 刀装具に関する研究（平成 24 年度）、⑰ 漆工品に関する研究（令和 5 年度）※、⑱ 岩佐又兵衛および岩佐派の研究（令和 4 年度）、⑲ 尾張徳川家における演能の研究（令和 6 年度） ※⑰は公益財団法人美術工芸振興佐藤基金の助成をもとに実施。

(2) 徳川林政史研究所との連携による研究

以下の研究を引き続き行った。

① 尾張徳川家歴代藩主に関する史料調査・研究、② 尾張徳川家関連史料に関する基礎調査・研究、③ その他、展示・教育普及事業への協力および研究交流の促進

(3) 収蔵品データベースの整備（前年度より継続）

以下の各項を引き続き実施した。

① 調書作成・入力、写真データ作成・入力、② 展示作品リスト・キャプション用データ整備・入力、③ リスト・キャプションの作成作品の写真撮影、作品情報のデータベース化等

(4) 研究用図書類の整備

① 図書（購入計 20 冊、受贈計 13 冊）

図書は、展覧会や収蔵品研究のための参考図書の他、『史料纂集 古記録編』（八木書店）、『大日本史料』（東京大学出版会）などの継続購入を含め、計 20 冊を購入した。また、『韓国美術蒐選』（東京大学出版会）、『源氏絵研究の最前線』（勉誠社）などの寄贈を受けた。

② 雑誌（購入計 107 冊、受贈多数）

雑誌は、『國華』（國華社）、『史学雑誌』（史学会）、『仏教芸術』（中央公論美術出版）などの定期刊行物を含む計 107 冊を購入した。また、『美術研究』（東京文化財研究所）、『MUSEUM』（東京国立博物館）、『茶の湯文化学』（茶の湯文化学会）など、多数の寄贈を受けた。

(5) 研究成果の公開・公刊

以下の通り、研究成果を公開・公刊した。

① 定期研究発表会

7 月 28 日（第 84 回）「宝菩提院願徳寺蔵『国宝 菩薩半跏像（伝如意輪観音）』の謎を解く」

山本泰一（元副館長、参与）

2 月 16 日（第 85 回）「徳川美術館蔵『源氏物語押絵貼屏風』について」長谷川円

② 図録、研究紀要等

a. 図録（冊子）の作成・頒布

特別展 御霊屋改修記念「尾張徳川家と菩提寺建中寺」

秋季特別展「みやびの世界 魅惑の源氏物語」

巡回展「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」

b. 英文リーフレットの作成

展覧会を紹介する英文リーフレットを作成・配布し、ホームページ上で公開した。

c. 金鯢叢書第 52 輯（「研究紀要」第 59 号）の編集・発行

③ 美術館だよりの編集・発行（年度内 4 回）

4、7、9、1月に『葵』第130～133号を編集・発行した。

(6) 大名道具収蔵館研究会（平成4年度より継続）

本年度は当館が幹事館を担当し、林原美術館でオンラインと対面方式の併用により開催した（2月10日）。

3. 教育・普及

以下の諸事業を実施した。

(1) 特別展記念講演会・記念講座

① 「人・ひと・ヒト 浮世絵の人と顔」展関連 特別講座「浮世絵のA～Z」

5月11日 「浮世絵はおもしろい！」 神谷浩（副館長兼学芸部長）

5月12日 「木版画 摺師による実演（北斎「神奈川沖浪裏」）と摺体験」

中山誠人氏（浮世絵版画彫摺技術保存協会京都支部長）

② 「尾張徳川家と菩提寺建中寺」展関連

7月7日 建中寺ご住職の講話と見学会 村上真瑞氏（徳興山建中寺住職）

③ 「もののふの備え」展関連

8月4日 記念講演会「日本甲冑の特質－機能性・装飾性・象徴性－」

佐藤寛介氏（東京国立博物館学芸企画部企画課 特別展室長）

④ 「魅惑の源氏物語」展関連

9月22日 記念講演会「現代用語で読み解く「源氏物語」～宇治十帖の世界～」

奥山景布子氏（小説家・文学博士）

(2) 土曜講座「大名の生活と文化」

4月20日 「アイドル・スター・ヒーロー 浮世絵に描かれた人たち」 神谷浩

5月18日 「うつろいゆくものに美を見出す」 吉川美穂（学芸部部長代理）

6月15日 「漆工品の魅力にはまる」 板谷寿美（学芸員）

6月22日 「建中寺の歴史と宝物」 安藤香織（学芸員・マネージャー）

8月10日 「武装の美」 並木昌史（学芸員・マネージャー）

8月17日 「武家社会にみる馬」 長谷川円（学芸員）

10月5日 「源氏物語の文化を紐解く」 吉川美穂

11月23日 「文物を愉しむ 多角的な視点」 加藤祥平（学芸員）

3月1日 「二つの利休像」 田中仙堂氏（大日本茶道学会会長）

3月15日 「百花繚乱江戸絵画」 神谷浩

(3) 徳川林政史研究所による古文書入門講座「江戸時代の古文書を読む 2代光友と3代綱誠の時代」

6月29日 「生類憐みの令に見る元禄政治」 深井雅海（所長）

7月6日 「光友の時代における武芸者の登用」 萱田寛也（研究員）

7月13日 「尾張藩林政への木曾山拝領と尾張藩による支配」 萱場真仁（研究員）

7月20日 「尾張徳川家における婚姻と千代姫の威光」 白根孝胤（特任研究員）

7月27日 「遺言状(1)－義直から光友へ－」 藤田英昭（研究員・マネージャー）

8月3日 「遺言状(2)－綱誠の遺言状－」 藤田英昭

(4) 徳川林政史研究所による江戸学講座「贈答の江戸学」

12月7日 「将軍家と大名の刀剣贈答」 深井雅海

1月11日 「尾張藩における海産物の献上」 萱田寛也

1月18日 「尾張家「万石以上」年寄の献上儀礼と将軍家」 白根孝胤

2月1日 「『礼物軌式』の世界～尾張家から将軍家への贈り物～」 藤田英昭

(5) 博物館実習

11月～12月に計4名受け入れ。

(6) 特別展・企画展関連 体験講座

① 「ハマる！工芸」展関連

6月16日 本格体験講座「螺鈿で彩る銘々皿」 鵜飼敏伸氏(漆芸家・日本工芸会正会員)

② 「魅惑の源氏物語」展関連

9月28日・29日 「和の香りを楽しむ組香『源氏香』」

10月6日 「薫物づくり 伝統の練香を作る」 小川薫氏(春香堂)

(7) 土曜子ども教室の開催(小中学生向け教育・普及／毎週土曜日、小中高生の観覧料は無料に設定)

令和6年4月～令和7年3月、計45日間(8月を除く)、毎週土曜日に1日3回、各約60分、小学校・中学校の児童及び生徒を対象に実施した。ボランティアがサポートしながら、体験型のワークショップを実施。参加者のべ1,291名(子ども784名、大人521名)。

(8) 夏休み子ども特別企画

「徳川美術館まるわかりガイド」を作成し、館内で無料配布(10,000部)。

「もののふの備え」展クイズ実施(小中生参加者数2,405名)。

(9) 団体対応プログラム

- ・貝合わせ(団体受入・デコパージュ)3件 計149名参加
- ・聞香(団体受入)4件 計45名参加
- ・館外での体験プログラム(名古屋観光ホテル)1件 計15名参加

(10) 小学校・中学校・高校・大学の生徒・学生向け体験を含めた来館プログラム

以下の各プログラムに各々記載の参加を得て実施した。

- ・美術館紹介プログラム：幼稚園1校(75名)、中学校2校(計58名)、高校3校(計58名)、大学11校(計355名)
- ・体験学習プログラム(模造刀・火縄銃・貝あわせなど体験後、館内を見学)：小学校3校(計146名)、中学校1校(10名)、高校2校(計63名)、大学6校(計79名)
- ・オンライン授業：高校1校(160名)

(11) 古美術相談会

作品持込・写真郵送・メール等による相談が計11件あり、随時対応した。

(12) 館長講演活動

- ・あべのハルカス美術館での講演(4月)
- ・サントリー美術館での講演(7月)
- ・瀬戸ロータリークラブでの講演(9月)
- ・BIPROGY研究会・全国フォーラム2024中部での講演(10月)

(13) 出講・受嘱

- ① 出講：学芸員計6名が合計7大学、文化センターほか合計6件の講座等に出講した。
- ② 受嘱：学芸部員計2名が愛知県内の市・研究機関等より受嘱した業務合計7件を実施した。

(14) ボランティア研修

- ・名品コレクション展解説研修：6月～3月に4回実施
- ・企画展特別展解説研修：4月～1月に7回実施
- ・土曜子ども教室研修：5月～12月に4回実施
- ・夏休み子ども企画研修：7月に2回実施
- ・松平郷/大樹寺/滝山寺見学会：7月に1回実施

(15) ナイトミュージアム

「徳川ナイトミュージアム PREMIUM 源氏夜会 2024」を9月に実施。大石静氏のトークショーと学芸員による展示解説、立食での飲食提供、オリジナルの土産等。112名が参加。

4. 協賛事業・事業協力・補助金事業

以下の諸事業を実施した。

(1) 協賛事業・事業協力

- ①「第 103 回名古屋市文化史教室 夏休み子ども企画」を名古屋市と共催。
- ②愛知県内の博物館・資料館などをめぐる「ひなまつりスタンプラリー」に参加（2 月 1 日～3 月 9 日）。

(2) 補助金事業

文化庁令和 6 年度文化芸術振興費補助金：令和 2 年度に認定を受けた「文化観光拠点施設」としての拠点計画に対応して、以下の項目の実施についての助成を得た。また文化庁より文化観光拠点としてのコーチングを、10 月より 2 月まで受けた。

- ・移動式展示ケースの更新
- ・国宝「源氏物語絵巻」展示・解説スペースの更新
- ・ホームページのリニューアル
- ・玄関ロビー・喫茶室等の照明の LED 化

5. 徳川美術館メンバーシップ・大学メンバーシップ

(1) 徳川美術館メンバーシップ

従前の「賛助会・友の会」は本年度より「徳川美術館メンバーシップ」として統合され新制度に移行し、新制度の下で、以下の各項の優待を行った。

- ① 1 年間の無料入館、② 各企画展・特別展の開始日前日に特別内覧会を開催（図録がある場合無料配布）（パートナー会員を除く）、③ 美術館だより『葵』および各種印刷物を配布、④ ショップ商品等の割引、⑤ 他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引（五島美術館ほか 4 館）。

会員数は以下のとおりであった（4 月末時点）。

種別	今期入会
個人・パートナー	471 名
個人・ゴールド	164 名
個人・プラチナ	4 組 8 名
計	643 名
法人・A	31 法人
法人・B	2 法人
法人・S	0
計	33 法人

(2) 大学メンバーシップ

対象大学の学生と教職員の無料入館（一部学生のための例外校あり）及び、対象大学への展覧会ポスター・ちらし、イベント案内等の配布・掲示依頼を行った。

会員登録校は以下のとおりであり、24 の学校法人（34 校）が加盟している（令和 7 年 3 月現在）。

愛知学院大学、愛知学院大学短期大学部、愛知学院大学歯科技工専門学校、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、桜花学園大学、名古屋短期大学、金城学院大学※、椋山女学園大学※、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋外国語大学、菱野幼稚園、名古屋ファッション専門学校、名古屋栄養専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋造形大学※、名古屋大学、名古屋文化短期大学、名古屋ビューティー専門学校、南山大学、名城大学※、愛知教育大学※、愛知大学、愛知大学短期大学部（※は、学生のみを対象とした会員）

6. 管理

(1) 観覧料

観覧料の変更はなく、オンラインチケットの利用拡大に加え、徳川ナイトミュージアム・徳川茶会等美術

館主催イベントについても同様にオンライン販売を行い、参加希望者の利便性向上と事務（販売管理・顧客管理等）の効率化を図った。

(2) 広報

①令和6年度のメディアによる取材件数は以下のとおりであった。

展覧会等	新聞	テレビ・ラジオ	雑誌・WEB等
花咲い、風の吹くらん	6	1	7
人・ひと・ヒト			2
尾張徳川家と菩提寺建中寺	15	1	5
ハマる！工芸			
甲冑の美学	11	2	28
馬とともに			
魅惑の源氏物語	4	7	20
宮廷文化の華			
とんがり美術	6	1	14
めでたきかなお正月	9		4
尾張徳川家の雛まつり	16	3	34
江戸絵画に新風が吹く	1		2
その他	11	4	24
合計	79 件	19 件	140 件

②有料広告として以下の掲示・掲載を行った。

名古屋アートニュース（隔月）、大曽根駅南口看板（常設）、大曽根駅北口看板（常設）、電柱看板（常設）、名古屋コンシェルジュバナー広告、リスティング広告、「光る君へ」ガイドブック広告、日経おとなのOFF「2025 見逃せない美術展」1頁広告

③ホームページ、Facebook、X（Twitter）、YouTube、Instagramの運用

(3) 営業

①団体利用促進のため以下を行った。

- ・旅行会社への営業活動 名古屋市内商談会、ツーリズム EXPO 東京、東京・大阪セールス等
- ・MICE 誘客の働きかけ
- ・名古屋観光コンベンションビューローとの連携
- ・大学メンバーシップ対象校へのポスターチラシ配布

②個人来館者利用促進のため以下を行った。

- ・JR 東海ツアーズ「ずらし旅」「EX 旅のコンテンツポータル」への参画による遠方在住や個人の旅行者の集客（年間約 1,300 人）
- ・前売券の販売促進：百貨店友の会 3 店舗（高島屋・名鉄・大丸松坂屋）での販売
- ・各種スタンプラリーの実施（外部団体と連携したものを含む）
- ・「ひなまつりスタンプラリー」（前掲 4. (1) ②）等

③ 閉館後・休館日等における時間外の利用誘致

- ・徳川ナイトミュージアム PREMIUM(前掲 3. (15)) 実施の他、団体向け夜間貸切を実施した。

(4) ボランティアの会

① 会員数推移は以下のとおりであった。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
会員数	280 名	221 名	229 名	229 名	216 名

②ボランティアの高齢化により活動人数が減少する中で、13 名を準解説員ボランティアとして採用し、活

動を開始した。令和 8 年 4 月以降の正解説員を目指し今後育成する。

③ 第 13 期ボランティア募集・採用を実施し、令和 7 年 4 月より 32 名が活動を開始した。

④ 解説業務実績は、ロビー解説参加者 9,892 名、団体解説：49 件 1,566 名。

(5) 徳川美術館運営懇話会

第 31 回目を 10 月 10 日当館にて開催した。

(6) 徳川園各施設連絡調整会議

月次定例会議に加え、各施設の本部より参加を得て全体会議を 1 月 31 日に開催した。

(7) 施設・設備の保守点検・営繕

館内共用部（講堂・玄関ホール・喫茶室）の LED 工事、新館第 6 室のリニューアル工事、美術館敷地東側の境界塀更新工事や、委託事業者による館内設備の定期メンテナンスなどを実施した。

(8) 活動支援基金

① 寄附金受付業務

前年度に引き続き、徳川美術館の実施事業を対象にした募金活動を行った。結果として、今年度は 6,507,553 円（法人 8 件:1,130,000 円、個人 71 件:3,214,000 円、募金箱:132,449 円、エポスカード寄附 2,031,104 円）の寄附金を受領した。

② 感謝状の贈呈

活動支援基金の高額寄附者（個人 30 口以上、法人 10 口以上）である法人 1 件、個人 1 名に対して、感謝状を贈呈した。

[公益事業 2] 研究所の調査・研究・教育・普及事業（徳川林政史研究所）

研究所開設 101 年目にあたる令和 6 年度は、所蔵史料の整理・公開作業を進めるなどの通常業務を遂行しながら、研究の二本柱である尾張藩研究と林政史研究を推進した。尾張藩研究に関しては、尾張家が大名家・寺社等に贈った品物を書き上げた「儀物軌式」の史料集刊行に向け編集・校訂作業を進め、併せて当主の事蹟をまとめた「事蹟録」のデータベース構築化作業を継続した。林政史研究については、引き続き『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化』を 2 冊刊行するとともに、尾張藩御山守の史料集『明和四年 御山方御用_并諸事日記』を翻刻・刊行し、成果を積み重ねた。教育・普及活動においては、例年通り徳川美術館と連携した古文書講座・江戸学講座などを開催し、研究成果をわかりやすく発信することに努めた。その他、徳川美術館での企画展開催に向けて美術館側との協力体制を一層強化し、意見交換を行いつつ展示準備を進めた。若手研究者の育成に関しては、所蔵史料整理や出張調査への参加を促すとともに、定期的に研究会の開催などを行い調査・研究指導に当たった。他機関と連携した史料集刊行や古文書講座への出講は、若手研究者の協力を得た上で実施した普及活動の成果といえる。

なお、当研究所の活動に対して、320,000 円の寄付が寄せられ、これを史料の購入に充当した。

事業計画に基づき令和 6 年度に実施した事業活動は以下の通りである。

1. 調査・研究

(1) 研究所における研究

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| ・名古屋城の構造と儀礼に関する研究（平成 27 年より継続） | 深井雅海（所長） |
| ・尾張藩幕末維新史の研究（平成 24 年より継続） | 藤田英昭（研究員・マネージャー） |
| ・近世の地域社会と森林利用に関する研究（令和 4 年より継続） | 萱場真仁（研究員） |
| ・近世山村の生活文化に関する研究（令和 4 年より継続） | 萱田寛也（研究員） |
| ・徳川斉朝正室淑姫の御守殿に関する研究（令和 5 年より継続） | 吉成香澄（非常勤研究員） |
| ・近世館林領藩における藻草等の採取と利用（新規） | 坂本達彦（特任研究員） |

(2) 徳川美術館との連携

① 古文書講座・江戸学講座への講師派遣

古文書講座は全 6 回、江戸学講座は全 4 回講師を派遣し、教育普及に当たった。

② その他協力・研究交流の促進

[公益事業 1] (美術館の運営事業) 2. 調査研究 (1) に記載の通り、① 尾張徳川家歴代藩主に関する史料の調査・研究、② 尾張徳川家関連史料に関する基礎調査・研究、③ その他、企画展準備のため美術館側学芸員ともオンラインも含め密接に意見交換しつつ、展示・教育普及事業への協力および研究交流の促進に務めた。

(3) 研究成果の公開・公刊

① 研究会の開催

- | | | |
|----------------------------------|---------------------------|---------------|
| ・8 月 2 日 | 上廣倫理財団 UF ホール（対面・オンライン併用） | |
| 軍楽隊の創設とお雇い外国人 | | 清水健太（非常勤研究生） |
| 文政期長州藩への和姫入奥に関する基礎的考察 | | 布川寛大（非常勤研究生） |
| 松嶺藩酒井家にみる大名華族の本分家関係―「御附」と「新御分人」 | | 林幸太郎（非常勤研究員） |
| 木曾馬の誕生と成長 | | 萱田寛也 |
| [講話] 尾張徳川家の政治空間―「席図」の紹介・分析を中心に― | | 深井雅海 |
| ・8 月 23 日 | 徳川林政史研究所 | |
| 近世名古屋町方における家屋敷所有と女性―名古屋橘町裏町を事例に― | | 松本日菜子（非常勤研究生） |
| ・9 月 6 日 | 徳川林政史研究所 | |
| 近世「溜沼」の機能と環境維持―上州館林藩領城沼を事例に― | | 坂本達彦 |

・9月18日 徳川林政史研究所

家斉の御立寄

吉成香澄

・12月13日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 10 木材生産を支える人びと』構想研究発表会

萱場真仁

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 11 加子母村の朝・昼・夜—江戸時代の“かしも生活”

⑤—』構想研究発表会

高木まどか（非常勤研究員）

・2月28日 上廣倫理財団UFホール（対面・オンライン併用）

19世紀前半、幕府の交通政策と人馬継立—東海道通行の大名家臣団を中心に—

仲泉剛（非常勤研究生）

「伊藤次郎左衛門家資料」の階層構造分析—「家」に注目して—

松本日菜子

鈴木信吉とその史料—旧藩士族・徳川黎明会・徳川義親

藤田英昭

鈴木信吉氏所蔵「鈴木三郎重家書状」に関する一考察

谷橋啓太（非常勤研究生）

鈴木家所蔵の14代将軍家茂の佩刀について

深井雅海

② 『金鯢叢書』第52輯（『研究紀要』第59号）の公刊（部数550冊）

江戸城本丸御殿の「奥」空間再論—吉宗・家治・家慶期の変化を中心に—

深井雅海

近世「溜沼」の機能と環境維持—上州館林藩領城沼を事例に—

坂本達彦（特任研究員）

加賀藩における海岸砂防林造成過程

萱田寛也

近世名古屋の町人地と家屋敷所持—橘町裏町を事例に—

松本日菜子

将軍家斉の「御立寄」と「御通拔」

吉成香澄

北海道八雲開墾における尾張旧藩主家と旧藩士族

藤田英昭

〔研究ノート〕

明治前期木曾谷ヒノキ造林地に関する一考察—明治九年「諸苗木培養一件綴込」について—

清水祐三（信濃史学会会員）

青森町「杉畑」の成立と変遷

萱場真仁

〔活動報告〕令和六年度の調査・研究・普及活動

〔所蔵史料目録〕徳川林政史研究所所蔵 続徳川林政史研究所収集絵図（続林絵図）目録（二）

③ 史料調査の成果公開（ブックレット、史料集の刊行）

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 10 木材生産を支える人びと』の編集・刊行

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 11 加子母村の朝・昼・夜—江戸時代の“かしも生活”

⑤—』の編集・刊行

『内木家文書 明和四年「御山方御用并諸事日記」』の編集・刊行

(4) 「尾張徳川史」編纂準備

① 「事蹟録」（旧蓬左 143-6）全128冊の出版用原稿化（完了）

② 「事蹟録」データベース作成（継続中）

③ 「（女中方）日記」全4冊（安永2年～寛政12年 旧蓬左 139-134）筆耕（完了）

(5) 尾張徳川家関連資料の調査・研究

古写真の研究・保全に資するため、アルバム所収古写真のデジタルデータ化を実施

(6) 史料調査

① 林政史アーカイブズ調査

ア. 岐阜県中津川市加子母地域史料調査

① 6月7日～10日、② 10月11日～10月14日、③ 3月7日～10日

イ. 金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料調査 10月1日～3日

ウ. 木曾古文書館所蔵史料調査 2月12日～13日

エ. 木曾出張（南木曾町資料館・木曾山林資料館他） 10月27日～29日

② 研究資料（複写・写真撮影資料を含む）の調査・収集

ア．犬山城白帝文庫所蔵史料調査	①6月28日～30日、②11月9日～11日
イ．名古屋市蓬左文庫所蔵史料調査	8月4日
ウ．八雲産業株式会社八雲事業所所蔵史料調査	8月28日～30日
エ．鎌倉在住鈴木家所蔵史料調査	2月20日

③ 収集史料データの整理および公開

金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料収集データ紙焼き製本の公開 80点

④ 林政・林業関係史料データベースの構築・公開

全国の他機関所蔵林政・林業関係史料情報について、下記機関の所蔵史料データベースを作成・公開した。また、各所蔵機関の協力を得ながら、出典として各所蔵機関の目録データのリンク付けもおこなった。

・長野県	長野県立歴史館	約 445 点
・静岡県	静岡県立中央図書館	約 130 点
・熊本県	熊本県立図書館	約 120 点
・鹿児島県	歴史・美術センター黎明館	約 55 点

(7) 調査・研究における他機関との連携・協力

① 名古屋市蓬左文庫

徳川林政史研究所所蔵史料の一部を紙焼き及びデジタルデータで提供し、名古屋市蓬左文庫での閲覧利用に協力した。

② 犬山城白帝文庫

犬山城白帝文庫と研究協力に関する覚書を取り交わし、調査・研究にあたった。所属の非常勤研究員が同文庫主催の古文書講座（古文書を読む2）に出講した。

③ 徳川記念財団

徳川宗家文書（受託史料）に関する下記の業務を実施した。

史料移動（常憲院殿御実紀 1 件）および宗家文書保管状況確認の立ち合い（5 月）、史料移動（御場御用書物目録書他 12 件、6 月）、史料移動（御年譜他 15 件、10 月）

④ 愛知県公文書館

愛知県史編さん委員会が県史編さんのために収集した林政史研究所所蔵史料の紙焼き（データ点数 11,356 点）を愛知県公文書館で公開し、閲覧利用を可能とするよう協力した。

⑤ 名古屋城調査研究センター

名古屋城調査研究センターと史料集刊行のための覚書を締結し、同センター編『国秘録 御天守御修復留』刊行に協力した。

2. 史料・図書の整理

(1) 所蔵史料の整理

以下の史料・文書等の整理を実施した。

① 旧蓬左文庫所蔵史料絵図甲乙について再整理の上、総数 216 件の目録を完成、② 信濃国諸地域文書総数約 90 件のうち計 86 件の目録を作成、③ 山村・千村・竹腰文書総数約 260 件のうち計 166 件の目録を作成、④ 殿村文書Ⅱ総数 264 件の目録を作成、⑤ 小木曾文書総数 48 件の目録を作成、⑥ 三尾村文書総数 5 件の目録を作成、⑦ 保高町村文書総数 16 件の目録を作成、⑧ 和田宿文書総数 22 件の目録を作成、⑨ 伊那郡上古田村文書総数 85 件の目録を作成、⑩ 田野口村文書総数 20 件の目録を作成、⑪ 徳川林政史研究所収集史料総数約 6,400 件のうち計 745 件の目録を作成、⑫ 愛知県史筆写史料の整理・目録作成総数約 106 件のうち計 99 件の目録を作成、⑬ 尾張文書の整理・目録作成総数約 100 件のうち計 11 件の目録を作成。

(2) 所蔵史料の目録刊行

続徳川林政史研究所収集絵図(続林絵図)目録(二)を『金鯪叢書』第52輯(『研究紀要』第59号)に収録刊
行した。

(3) 所蔵史料データベースの構築および保存

① 所蔵史料データベースの構築

- ・尾張徳川家文書のデータベース化：「尾6」165点のデータを入力した(見積もり総数10,489点のうち計9,507点完了)。
- ・三河国額田郡小呂村文書のデータベース化：総数58件のデータを入力し、作業完了。
- ・愛知県史筆写史料のデータベース化：総数106件のうち、99件のデータを入力した。

② 目録データベースの検索・活用方法ならびに公開体制(ホームページでの検索システム構築)の検討

- ・尾張徳川家文書目録(「尾5」)・石河家文書目録をHP上に公開した。

(4) 史料のデジタルデータ化

① 所蔵古写真(アルバム所収分)のデジタルデータ化(63点)

② 所蔵史料のデジタルデータ化

- ・外部委託によるもの：デジタル撮影(絵図)／続林絵図2010「柳営略図」1点4カット、およびデジタル撮影(文書)／林1717『日記』)93点6,626カット。
- ・所内でのデジタルデータ化(デジタルマイクロリーダー導入による)：「尾張様御上国之節御用留」・「尾張殿様御上国之節賃銭割渡帳」など、14,587コマ。

③ 調査収集史料写真のデジタルデータ化

- ・岐阜県中津川市加子母地域史料(デジタルデータ5,610コマ)
- ・金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料(デジタルデータ9,580コマ)
- ・木曽古文書館所蔵史料(デジタルデータ150コマ)
- ・犬山城白帝文庫所蔵史料(デジタルデータ5,680コマ)
- ・名古屋市蓬左文庫所蔵史料(デジタルデータ541コマ)
- ・八雲産業株式会社八雲事業所所蔵史料(デジタルデータ460コマ)

(5) 史料の購入・補修(活動支援基金)

① 購入

- ・史料「五十人御目付勤方書」2冊1組
- ・史料「尾張徳川家奥向き文書」4通1組

② 補修

続林絵図2010「柳営略図」1点

(6) 書庫内の整理ほか保存環境の保全

重複図書の確認およびリポジトリ掲載雑誌の確認作業をおこない配架を見直すなど、3階書庫内整理の準備を進めた。また、書庫内照明器具の修理を順次行った。

(7) 研究用図書の整理

① 図書整理

昨年度に引き続き、図書・雑誌のコンピューター入力を進め、新着図書603冊に対し、ラベル貼付並びに入力作業を行った。

② 図書の購入・受贈

図書は『公家事典 新訂版』等45冊を購入。その他寄贈された図書150冊。

雑誌は『歴史学研究』等141冊を購入。その他寄贈された雑誌267冊。

3. 教育・普及

(1) 講座・講演

① 徳川美術館「古文書入門講座」

[公益事業1](美術館の運営事業)3. 教育・普及(3)に記載の通り。

② 徳川美術館「江戸学講座」

[公益事業1](美術館の運営事業)3. 教育・普及(4)に記載の通り。

③ 徳川林政史研究所公開講座・豊島区教育委員会共催

- | | | |
|-------|-------------------------|-------------|
| 9月5日 | 古文書にみる“青い森”～津軽地方の森林と生活～ | 萱場真仁 |
| 9月12日 | 厳しい自然と生きる～加子母の森林と人びと～ | 浅井良亮(研究協力員) |

④ 歴史講演会・加子母むらづくり協議会 NPO 法人かしもむら共催

- | | | |
|------|--------------------|-------------|
| 3月8日 | 三浦山での御山守の仕事と暮らし | 太田尚宏(特任研究員) |
| | 絵画・映像にみる江戸時代の伐木・運材 | 萱場 真仁 |

⑤ その他の講演

・深井 雅海

- | | | |
|--------|--|----------------|
| 4月18日 | 江戸城の構造と機能 | 調布市日本史を学ぶ会 |
| | ～全10回(5月16日、6月20日、7月18日、9月19日、10月17日、12月19日、1月16日、2月27日、3月27日) | |
| 6月15日 | 江戸城請取りの顛末 | 学習院さくらアカデミー |
| 11月9日 | 享保改革期における法令伝達 | 学習院さくらアカデミー |
| 11月21日 | 真説忠臣蔵 | 調布市日本史を学ぶ会公開講座 |

・藤田 英昭

- | | | |
|--------|-------------------|--------------------|
| 6月1日 | 尾張徳川家の決断と勤王誘引 | 学習院さくらアカデミー |
| 7月20日 | 幕末政局と川村恵十郎 | |
| | —『川村恵十郎日記』を中心に— | 幕末史講演会(町田市商工会議所) |
| 8月31日 | 維新时期尾張徳川家の役割と八雲移住 | 木彫り熊100周年記念事業(八雲町) |
| 9月14日 | 尾張家から将軍家への贈り物 | 明海大学オープンカレッジ |
| 12月21日 | 享保改革と徳川宗春 | 学習院さくらアカデミー |

・萱場 真仁

- | | | |
|--------|-------------------------|-------------------|
| 5月24日 | 尾張藩林政と山村家 | |
| | ～木曾山拝領から寛文の林政改革まで～ | 第1回木曾学講座 |
| 6月29日 | 知られざる北奥の動乱～命運分かれた津軽と南部～ | 学習院さくらアカデミー |
| 7月20日 | 暮らしを守る津軽の森林 | |
| | ～藩政史料にみる“青い森”の実像～ | 高岡の森弘前藩歴史館第1回歴史講座 |
| 11月30日 | 尾張藩の享保林政改革 | 学習院さくらアカデミー |

・萱田 寛也

- | | | |
|-------|----------------|----------------|
| 8月29日 | 木曾馬の誕生と成長 | 鷲ノ巣愛林農業協同組合研修会 |
| 10月5日 | シーボルトの西洋医学と鳴滝塾 | めぐろシティカレッジ振興会 |

(2) 外部機関などとの連携

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 6月20日 | 学習院大学学芸員資格取得課程「博物館実習」受講生・教員 |
| 12月2日 | 東京大学大学院農学生命科学研究科「森林政策学演習」受講生・教員 |
| 3月3日 | 中京大学文学部歴史文化学科卒業研究ゼミナール(近世史)所属学生・指導教員 |
| 3月17日 | 法政大学人間環境学部人間文化コース学生・指導教員 |

(3) ホームページによる情報発信

ホームページを活用して、「内木家御用状留」などの所蔵史料画像約10点を公開した。

(4) 出講・受嘱

- ① 出講: 研究員(2名、藤田および萱場)が大東文化大学、学習院女子大学および学習院大学に出講した。
- ② 受嘱: 研究員(2名、藤田および萱場)が大田区立勝海舟記念館、国立歴史民俗博物館、新十和田市史編さん専門委員会よりそれぞれ委嘱を受けた業務を行った。

4. 若手研究者の育成

- (1) 非常勤研究員・研究生による研究会の開催
夏季および春季の研究集会は対面およびオンライン併用にて開催した。
- (2) 非常勤研究員・研究生による史料整理・目録作成作業
夏季の集中史料整理は在宅データ入力作業にて実施し、春季の集中史料整理は研究所内にて実施した。
- (3) 非常勤研究員・研究生の名古屋研修の実施
7月12日～13日 熱田白鳥の歴史館、徳川美術館および名古屋市蓬左文庫にて実施した。
- (4) 在宅作業による史料解説・校正
研究協力者に古文書史料の解説・校正を依頼し、翻刻史料を史料集「御山方御用_并諸事日記」として刊行した。

5. 閲覧・出陳・レファレンス業務

- (1) 史料閲覧
閲覧申請数 47 件、閲覧者数延べ 130 名、出納史料数 1,143 点。
- (2) 所蔵史料の出陳
 - ① 「特別展 犬山城―公園から始まる新たな歩み―」(城とまちミュージアム)
会期：令和6年10月30日～12月3日
出陳史料名：犬山城及び城下絵図など
 - ② 「特別展 百草蒔絵薬簞笥と飯塚桃葉」(根津美術館)
会期：令和6年11月2日～12月8日
出陳史料名：群蟲真景図
- (3) 所蔵史料写真の貸し出しおよび複写サービス
 - ① 所蔵史料写真の貸出及び複写
受付総件数 計 106 件(林政史研究所直接受付 82 件、愛知県公文書館受付の紙焼き史料複写申請 24 件)
 - ② 蓬左文庫受付の二次複写申請
受付総件数 計 20 件 1,557 枚(DVDからの複写 20 件、紙焼き本からの複写 0 件)
- (4) レファレンス対応
閲覧来所者及び電話でのレファレンスに対応した。

6. 補助金関係

- (1) 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(特定奨励費)
申請者：(公財)徳川黎明会徳川林政史研究所
研究事業名：近世・近代における持続可能な森林経営に関する調査・研究・普及事業
交付機関：(独)日本学術振興会
交付金額：10,400,000 円
- (2) 特定奨励費以外の科学研究費助成事業
 - ① 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
研究種目：基盤研究(B)(一般)
研究課題名：地域社会史の視座に立った旧藩社会の統合的研究―「旧藩地域社会論」をめざして―
交付機関：中央大学((独)日本学術振興会)
交付金額：150,000 円
研究分担者：徳川林政史研究所 所員研究員 藤田 英昭
 - ② 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
研究種目：基盤研究(B)(一般)

研究課題名：近世における森林資源コントロールに関する基礎的研究－尾張藩を中心に－
交付機関：国文学研究資料館（(独)日本学術振興会）

交付金額：150,000 円

研究分担者：徳川林政史研究所 研究員 萱場 真仁

(3) その他の競争的資金及び民間助成金等

助成金名：公益財団法人上廣倫理財団教育・研究・活動助成金

申請者：徳川林政史研究所 所長 深井雅海

事業名：歴史学研究の発展に貢献できる若手研究者の育成

助成機関：(公財)上廣倫理財団

交付金額：5,000,000 円

7. 事業評価委員会の開催

令和7年4月16日、外部委員に徳川林政史研究所が実施した令和6年度事業についての説明資料を送付し、紙面評価・講評をうけた。

8. 資産の取得

(1) 什器備品：ノートパソコン2台を購入

(2) 図書：購入45冊、受贈150冊

9. 建物・設備の設備管理・営繕

本部建物雨漏り止水工事、3F空調設備点検・修繕作業、3F応接室スイッチ交換、小荷物専用昇降機保守等を実施した。

10. 活動支援基金

前年度に引き続き、徳川林政史研究所の事業を対象にした募金活動を行い、320,000 円（法人 0 件／0 口、個人 21 件／32 口）の寄付を受領し、史料購入・補修に充当した。

Ⅲ. 収益目的事業

[収益事業 1] 不動産賃貸事業（本部・総務部）

不動産賃貸：外国人向け住宅の賃貸（全 6 棟）を継続

[収益事業 2] ミュージアムショップ・宝善亭等の運営事業（徳川美術館）

1. ミュージアムショップの運営

収益力強化を図るべく、以下のような諸施策を実施した。

- ・刀剣ファンを訴求対象とする「とくびぐみ」グッズ新商品の制作・販売
- ・東京での期間限定出店の実施（有楽町マルイでのフェス開催）
- ・源氏物語関連の新商品（和三盆・竹しおり）の制作・販売
- ・地元食品企業とコラボした商品の制作・販売（エビせんべい、クッキーほか）
- ・SNS による積極的な商品告知によるオンラインショップの利用促進
- ・館外他施設での委託販売実施によるグッズの売上促進（あべのハルカス美術館・サントリー美術館ほか）

2. 宝善亭・コーヒーラウンジの利用促進

宝善亭は、展覧会にあわせた四季折々のメニューを提供しつつ、引き続き利用促進に努めた。コーヒーラウンジでは、展覧会のテーマにあわせたスイーツを提供すると共に、ホームページ・SNS 等での広報を積極的に実施した。また新たに策定した美術館のブランディング指針をもとに、運営委託業者と協力し内装を全面リニューアルし、名称も「THE MUSEUM CAFÉ」と変更して、若年層にも訴求力のあるスタイルでの営業を行った。

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していない。